

令和4年度 綾瀬市立城山中学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども	
学校教育目標	学校経営の方針	
自立する生徒 ～ イメージ豊かに創造しよう ～ ・意欲を持って学習する人 ・正義を重んじる人 ・共に生きる人	安全・安心で、生徒が主体的に活動する学校づくりに努める ○ 地域社会の未来を担う、「自立する生徒」の育成を図る ○ 校内研究を活性化し、主体的に学習に取り組む生徒の育成を図る ○ 家庭や地域との連携を図る	
グランドデザイン		

今年度の重点目標

- ◎ 自他を大切にできる豊かな人間関係を築かせる
- 自ら学ぶ姿勢を身につけさせる
- 基本的生活習慣を身につけさせる

取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「意欲を持って学習する人」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	集計結果から、生徒、保護者、教職員ともに、今年度も約8割から「授業に意欲的に取り組んでいる」と評価を得ました。昨年度の校内研究発表会以降も、教職員が授業改善を継続している表れであると思われます。今後も、生徒が主体的・対話的で深い学びを得る授業づくりと更なる家庭学習の啓発を目指し、確かな学力の向上に努めていきたいと思います。
2 教育課程	生徒は、学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加している。	集計結果は昨年度と概ね変わらぬ数値となり、今年度も生徒、保護者の多数から「積極的に参加している」という評価を得ました。今後も健康面の安全を第一とした感染症対策を講じながら、生徒の生きる力を育むことを目指した学校行事や生徒会活動、部活動を実施していきたいと思っています。
3 児童・生徒指導	学校は、「共に生きる人」を育てる指導を積極的に行っている。	集計結果から、今年度も生徒、保護者ともに、「人に対してやさしく接していると思う」という評価が9割を超えました。しかし「そう思っていない」と回答する生徒も1割いることに、着目していかなければいけません。次年度も、生徒全員が豊かな人間関係を築くことができる教育活動を積極的に実施する必要があります。
4 児童・生徒指導	生徒は、友人や先生との学校生活に満足している。	9割以上の生徒が「学校生活を楽しく送っていると思う」と回答しています。しかし一方で、「学校生活を楽しく送っていない」と感じている生徒もいます。今後も、生徒に寄り添った指導を行い、ソーシャルスキルトレーニングやグループエンカウンターなどの人間関係づくりの集団活動を工夫し、生徒一人ひとりが充実した学校生活を過ごせるように取り組んでいきたいと思います。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	教職員のいじめに対する意識の高さが結果に表れています。しかしながら、保護者については、肯定的でない回答が2割ほどありました。今後も、学校全体でいじめの早期発見・再発防止に努め、トラブルが発生した際は、迅速且つ適切に指導し、すべての生徒が安全・安心な学校生活が送れるよう取り組んでいきたいと思います。
6 保健管理	学校は、「健康な心と身体を育む」指導に積極的に取り組んでいる。	生徒、保護者ともに健康や体力に高い関心をもっていることがわかります。しかし保護者の「あまり思わない」以下の数値が高くなっていることにも、着目しなければなりません。家庭における生徒の実態を把握し、必要な指導を検討する必要があります。感染症予防については、高い意識をもって取り組みました。今後も社会情勢を見極めながら、健やかな生徒の育成に努めていきます。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、生徒の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	指導面の集計結果では、昨年度より大幅な向上が見られました。今年度は避難訓練の実施内容について見直しを行い、「実践的な訓練」をめざしました。来年度以降も、生徒が自分事として捉えられるよう内容を工夫していきたいと思っています。また日常的な施設の点検、整備に取り組み、生徒が安心・安全に過ごせる学校施設を維持していきたいと思っています。
8 支援教育	学校は、生徒に応じた支援の工夫をしている。	教職員の9割以上が、この質問項目に肯定的な回答をしました。教職員が生徒一人ひとりと大切に関わろうとする姿勢が、結果に表れています。今後も、生徒との信頼関係づくりに努め、生徒理解を深めるとともに、生徒がよりよい学校生活を送れるよう、支援教育に取り組んでいきたいと思います。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	集計結果から、多くの教職員が肯定的な回答をしています。このことは、校長の学校経営方針のもと、各グループが総括教諭を中心に円滑な活動を行ってきたことの表れだと考えられます。次年度もよりよい学校運営をめざし、全職員が職務を円滑に遂行できるよう努めていきたいと思います。

10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取り組みに力を入れている。	本校は、令和2・3年度に綾瀬市教育委員会より研究推進校の指定を受け、校内研究に対する意識が非常に高まりました。「積極的に取り組んでいると思わない」という回答がありました。アンケートの記述から教職員が今まで以上の質の高い授業をめざしているためであると考えられます。『育てたい生徒の姿』をより具体化し、これまで取り組んできた授業改善や単元指導計画作成などを活用しながら、来年度以降も授業改善に取り組んでいきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、生徒の実態を把握し、よりよい生徒の成長のための工夫をしている。	アンケートから、「指導の工夫をしている」という評価は依然として高いものの、「まったく思わない」と感じている回答も見受けられます。一方で教職員の意識は「指導の工夫をしている」と感じている割合が増えています。昨年度よりも教職員との意識の隔たりが広がりました。学校教育目標である「自立する生徒」の育成に向け、各家庭と連携しながら、生徒が自ら考え、主体的に取り組む教育活動を更に推進する必要があると思われまます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	保護者からの「伝えられていると思う」という回答が、8割を超えています。これは、デジタル連絡ツール（スクリレ）に加え、学校と家庭が社会情勢を意識した情報共有に努めた成果であると考えられます。しかし、一方で2割近い家庭が「あまり思わない」に回答しており、今後も、様々な形で、学校と家庭との連携を充実させていく必要があると思われまます。

【学校運営協議会からの意見及び改善策】

- 保護者との連携について
 - ・保護者との連絡手段については、従来どおりの紙のたよりだけでなく、「スクリレ」や今年度導入した「C4th」といったデジタルツールを活用できている。一方で、教員と保護者が直接会って話をすることも大切だと感じる。今後、感染症予防対策が緩和されていく中、家庭訪問や個別面談といった既存の方法と、デジタルツールのバランスをとって、保護者との連携を高めていく必要がある。
 - 授業力の向上について
 - ・今後、教員の働き方改革が進んだり、部活動が外部委託されたりしていく中で、教職員にとっては捻出された時間を活用して、今以上に授業力の向上が大切になっていく。これまで以上に、校内研究をはじめとした教員の研修体制を整え、教職員が主体的に研鑽に努めてほしい。
 - いじめや不登校対策について
 - ・多くの生徒が人に優しく接することができる一方で、少数ではあるが、そうでない生徒もいる。そういった生徒にも目を向け、信頼関係を築いていく必要がある。
 - ・長期欠席の生徒に対しても、丁寧に進路指導を行っているが、卒業した後の様子についても把握するよう努めてほしい。
 - ・長期欠席の生徒にとって、保護者の存在はとて大きい。保護者が焦らずに子どもと向き合えるよう、関係機関や相談会等を周知することで、保護者同士が繋がる機会を設けることができるようにする必要がある。
- ※今回の結果や、いただいた意見を教職員で共有して、来年度につなげていく。